

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 17 日現在

機関番号：32704

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23520337

研究課題名(和文)近代初期イングランド演劇にみるシャリヴァリ表象と演劇のパブリック圏創出機能

研究課題名(英文)Representation of charivari in early modern English theatre and its creation of a public sphere

研究代表者

中村 友紀(Nakamura, Yuki)

関東学院大学・経済学部・准教授

研究者番号：80529701

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,700,000円、(間接経費) 510,000円

研究成果の概要(和文)：16-17世紀イングランドにおいて、演劇がパブリック圏創出の場となり、人の意識およびイングランド社会の近代化の一要因となった、そのメカニズムの検証を行った。複数の演劇作品および各種資料の分析を通じて、民衆儀礼シャリヴァリなど示威行為や復讐の表象から、近代的個人の権利や正義の意識を検証した。近代初期人が自律的に振る舞い、その自己認識の形成には、演劇という媒体の文化的要因があったという議論を、6本の論文において行った。最終的に、パブリックおよびパブリック圏の観点から、演劇の集団的受容経験を通じて、観客がコミュニケーション・ネットワーク持ちえ、それが近代初期文化の生成に関与したという結論に至った。

研究成果の概要(英文)：This project focused on early modern theatre's functions of creating a public sphere and its influence on the modernization of the people and society of early modern England. Through literary analysis of plays and historical materials, this project explored the early modern individual's consciousness of justice and rights, in other words, distinctive indices of modernity of people's mind, analyzing demonstrative behaviors such as charivari and other kinds of retaliatory actions such as blood revenge. In six papers, this research explained how the social medium of theatre promoted autonomy, self-awareness, and individualism in the minds of early-modern people. By examining the public and public spheres, this project concluded that early modern audiences participated in communication networks, through which they experienced a collective reception of performance and drama. This project found this phenomenon an important key to the nature of early modern culture.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：英米・英語圏文学

キーワード：シャリヴァリ パブリック圏 公共性 復讐劇 心性 民衆文化 演劇 近代初期イングランド

## 1. 研究開始当初の背景

(1) 当研究代表者は1999年より、シャリヴァリをモチーフとする演劇作品の研究を行ってきた。その過程を通じて「演劇と共同体」という主題を、民俗学的・文化人類学的アプローチおよび、アナル歴史学に影響を受けた新歴史主義的ディスコースにおいて論じてきた。当該分野（文化史的演劇研究）においては、1990年代から2000年代にかけて、「共同体」に関する学際的研究のトレンドとして、ハーバマスの公共性理論やゴッフマンのコミュニケーション理論が影響力を持つようになり、応募者のアプローチも2005年からその影響下にある。文化人類学的興味による共同体理解は、ゴッフマンのコミュニケーションと人間関係性についての理論と関連しており、また、パブリック圏概念を歴史的文脈に適用する場合、アナル派的なもしくは、唯物史観的な歴史理解を前提とすることが有効であるので、このようなトレンドの推移は当然といえる。

(2) 近年の演劇研究分野の傾向として、こうした変遷を示す出版や研究成果発表が、特に欧米のルネサンス研究関連の学会等で2000年代以降目立ち、今後数年、この分野において主要な趨勢の一つとなると見込まれる。例えば、Bronwen Wilson and Paul Yachnin 編著の *Making Publics in Early Modern Europe* (2010)などは、そうした動向の顕著な一例である。この研究書には、新歴史主義や文化人類学的演劇研究の代表的研究者たちによる、パブリック理論観点からの論文が収められている。また、最近では Alison Findlay が、ゴッフマン的なアプローチにより、儀式の演劇的表現に、コミュニケーション行為の意義を探る試みを行っている（2010年4月 Renaissance Society of America 大会発表および *Shakespeare Survey* 63, 2011年1月）。

(3) 文化人類学やアナル歴史学を援用した文化史研究は、共同体というレベルから社会に切り込む。この観点から演劇作品を考える場合、共同体を構成する人や事物の交流・相互作用や、近代初期的市民としての民衆のプライベート次元あるいはパブリック次元の生という問題に、いずれ必然的に行き当たる。応募者による本研究も、一連の検証の結果、パブリック圏という問題点に行き着いたものである。

## 2. 研究の目的

(1) 16-17世紀イングランドにおいて、演劇はパブリック圏創出の場となり、個人と集団の関係性形成に影響を与え、社会のあり方を決定する要因の一つとなった。そのメカニズム

の検証を本研究は長期目標としており、その中の本研究機関にあたる3年間の短期目標として、民衆儀礼シャリヴァリの演劇的表象の分析を中心に、近代初期人が共同体と個人との関係性をどのように認識し、個人が共同体の中でどのように振舞ったかを、演劇表象の内容および枠組みにおいて検証することに特化した。

(2) また、演劇の集団的受容の際に生じるコミュニケーション・ネットワークが、劇場をパブリック圏となし、近代初期文化の生成に関与したということを実証することを目的とした。ハーバマスの言う18世紀のブルジョワ・パブリック圏の概念を応用し、パブリック圏の定義を16・17世紀のイングランドに当てはめて、社会的階梯や経済的・政治的・宗教的諸条件が束の間無効化され、条件付で自由な個人が、自律的にパブリック・オピニオン形成のフォーラムに参加する場、という意味での、近代初期劇場の、とくにパブリックシアターの公共性を化粧することを目的とした。

## 3. 研究の方法

(1) 方法としては、主に文献調査と論文執筆が中心となった。ゴシップ、評判形成などのコミュニケーション行為、あるいは復讐、互酬、相互扶助といった社会的関係性にかかわる事柄を、劇作品および史料などの一次資料から分析し、二次資料を検討あるいは援用して分析を進めた。

(2) 懲罰儀礼シャリヴァリの動機・意識を考えることが、シャリヴァリや復讐が演劇的モチーフとなりえたという文化的現象への新たな理解につながるため、シャリヴァリに関連する記録を分析して、論拠を得た。特に、演劇作品やシャリヴァリに見られる互酬の観念に注目した。

(3) そのために、社会史、文化史分野の二次資料に加え、一次資料となる史料を入手して分析した。先行研究の引用文献から目星をつけ、古文書館等に保管されている各種記録文書にあたり、シャリヴァリに関連する史料を探し、分析した。先行研究に部分的にのみ引用されているものはその前後の文脈や全体を実際に確認し活用した。先行研究において紹介だけされていて、引用のないものは実物を確認した。また、同じ記録の別の巻や同種の別史料を渉猟するなどして、先行研究等でまだ紹介されていない未知の有用な史料を確保し、分析対象とした。大英図書館や国立フランス図書館、サマセット歴史センター等の機関に赴いて複写を獲得した。史料に関し

ては、先行研究が引用する情報に孫引き的に依存するだけでは不十分であり、また錯誤に陥る危険もあるため、史料の現物にあたってその全容を把握した。

#### 4. 研究成果

(1) 2011 年度は、近代初期イングランド演劇の場である劇場に、初期段階パブリック圏が出現する諸条件を検証した。特に、16-17 世紀の復讐劇に顕著な、権利や正義にかかわる意識に注目し、社会と個人の関係性や個人の自己認識の近代的形成の問題を扱った。イングランド社会の民衆が公衆になり始め、民衆が公共的コミュニケーションのネットワークを持ち始めたきっかけは劇場という特殊な公共空間にあり、演劇に、18 世紀以降のパブリック圏につながる諸要因が備わっていたと結論づけた。

(2) 2012 年度は、近代初期イングランド演劇において初期段階パブリック圏の概念がどのような意味において、またどの程度、適用可能かを検証した。復讐劇を取り上げ、権利や正義の概念というモラルやルール of the 枠組みからコミュニティや社会についての演劇表象におけるイメージを探り、また、個人同士の社会的関係性や自己認識のあり方を分析した。さらに、観客のアマチュア出演や批評などの能動的参加と、芝居の内容による作用から、観客の内面に近代的自己認識が生じたプロセスを検証した。結果として、ハーバマスの言うような 18 世紀的パブリック圏は、18 世紀に突如出現したものではなく、その萌芽は 17 世紀の劇場に認めることができるという結論に至った。

(3) 2013 年度には、16-17 世紀イングランド演劇が、パブリック圏創出の場となり、近代的個人の形成に影響を与え、社会の近代化の文化的一因になった点を検証した。個人の集合体である観客に集合的経験をもたらす、自律的個人が参加できるコミュニケーション・ネットワークを出現させた演劇という媒体が、コミュニティにおける自己の存在の認識を促進し、近代的個人の出現の一要因となったという結論を導き出した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 6 件)

中村友紀、『ランカシャーの魔女たち』とナサニエル・トムキンス：近代初期イングランドの観客心性、『比較文化の地平を拓く』(開文社) 査読有、2014、pp.3-19

中村友紀、『白い悪魔』の“the world turned upside-down”の表象と復讐劇のカタルシス、自然・人間・社会、査読有、56 号、2014、pp.81-105

Nakamura, Yuki, Theatricality of Retribution: Masques in Revenge Plays, 自然・人間・社会、査読有、55 号、2013、pp.61-76

中村友紀、抵抗のスペクタクルとしての復讐劇：Antonio's Revenge の仮面劇、比較文化研究、査読有、106 号、2013、pp.13-24

Nakamura, Yuki, The Public and Community in the Revenge Play, 比較文化研究、査読有、100 号、2012、pp.167-174

中村友紀、石の饗応：復讐劇としての *Timon of Athens* と *The Witches of Lancashire*、比較文化研究、査読有、97 号、2011、pp.101-114

[学会発表](計 6 件)

中村友紀、『ランカシャーの魔女たち』とナサニエル・トムキンス：近代初期イングランドの観客心性、日本比較文化学会 3 支部合同大会、2013 年 12 月 14 日、同志社大学

中村友紀、『白い悪魔』の“the world turned upside-down”の表象と復讐劇のカタルシス、日本比較文化学会全国大会、2013 年 6 月 8 日、同志社大学

中村友紀、抵抗のスペクタクルとしての復讐劇：Antonio's Revenge の仮面劇、日本比較文化学会 3 支部合同大会、2012 年 12 月 8 日、同志社大学

中村友紀、演じる行為と示威行為：近代初期イングランドの自意識を分析する(シンポジウム発表)、日本比較文化学会全国大会、2012 年 6 月 9 日、岡山市中央公民館

Nakamura, Yuki, Theatricality of Retribution: Masques in Revenge Plays, The Renaissance Society of America 2012 Annual Conference, 2012 年 3 月 24 日、Grand Hyatt Washington D.C.

Nakamura, Yuki, The Public and Community in the Revenge Play, International Federation for Theatre Research Annual Conference, 2011 年 8 月 11 日、大阪大学

[産業財産権]

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：  
〔その他〕  
ホームページ等

## 6 . 研究組織

### (1)研究代表者

中村 友紀 (NAKAMURA, Yuki )  
関東学院大学・経済学部・准教授  
研究者番号：80529701

(2)研究分担者      なし